

経営複合化に向けた取り組みを進めましょう！

～ 特色ある園芸作物生産のすすめ ～

主穀作経営体の体質強化に向け、収益性の高い園芸作物の導入が有効です。また、導入品目の選定にあたって、「販売先が確保されているか」、「主穀作との作業競合の程度」等が重要なポイントになります。

そこで、近年、射水市内でも栽培が始まっている特色ある園芸作物として、野菜では、**白ねぎ**・**えだまめ**（1億円産地づくり事業対象品目）・**キャベツ**・**こまつな**・**ブロッコリー**・**かぼちゃ**・**スイートコーン**・**プチヴェール**。

果樹では、**もも**

切花では、**ストック**を紹介します。

園芸導入により年間を通して、収益および労力の有効活用を図り、経営体の基盤強化へとつなげましょう！！

1. 射水市内の生産状況（平成22年度実績）

品目名	特色（セールスポイント）	栽培面積 (ha)	栽培者数 (戸・組織)	H23 目標面積
白ねぎ	10aあたりの売上が大きい	22.0	32	24.0
えだまめ	一連の省力機械が整備されている。	7.2	16	10.0
キャベツ	多様な作型の組み合わせで継続出荷ができる	10.0	36	12.5
こまつな	周年的な労働力活用ができる	9.0	12	10.0
ブロッコリー	(大麦・枝豆)後作の高度利用に最適	4.5	12	5.0
かぼちゃ	県産に対するニーズが高い	1.8	16	2.0
スイートコーン	直売所で人気が高い	0.7	6	1.0
プチヴェール	冬季間の労働力活用ができる	0.17	9	0.2
もも (成園:植栽8年目頃)	完熟で収穫するので人気が高い	0.6	1	1.0
ストック	冬季間の労働力活用ができる	0.37	11	0.4

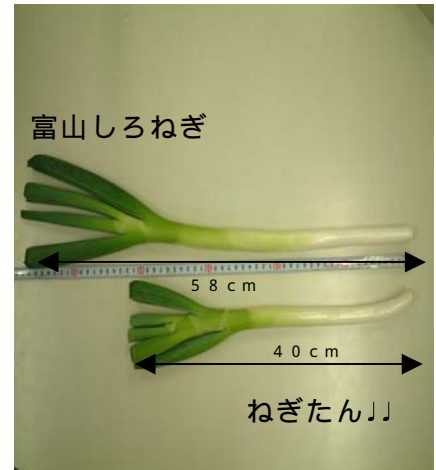
2. 経営指標

品目名	粗収益 (千円/10a)	経費 (千円/10a)	所得 (千円/10a)	労働時間 (hr/10a)	時間当たり労働報酬 (円/hr)	備考
白ねぎ	750	425	325	330	990	単価：300円/kg 単収：2,500kg/10a
えだまめ	200	158	42	55	760	単価：500円/kg 単収：400kg/10a
キャベツ	240	130	110	115	960	単価：80円/kg 単収：3,000kg/10a
こまつな	540	295	245	250	980	単価：350円/kg 単収：1,500kg/10a
ブロッコリー	225	120	105	140	750	単価：180円/kg 単収：1,250kg/10a
かぼちゃ	225	120	105	140	750	単価：170円/kg 単収：1,500kg/10a
スイートコーン	216	125	91	120	760	単価：180円/kg 単収：1,200kg/10a
プチヴェール	525	300	225	230	980	単価：1,500円/kg 単収：350kg/10a
もも (成園)	880	450	430	250	1,720	単価：550円/kg 単収：1,600kg/10a
ストック aあたり	126	26	100	107	930	単価：50円/本 単収：2,070本/a

白ねぎ

1. 白ねぎ栽培の魅力

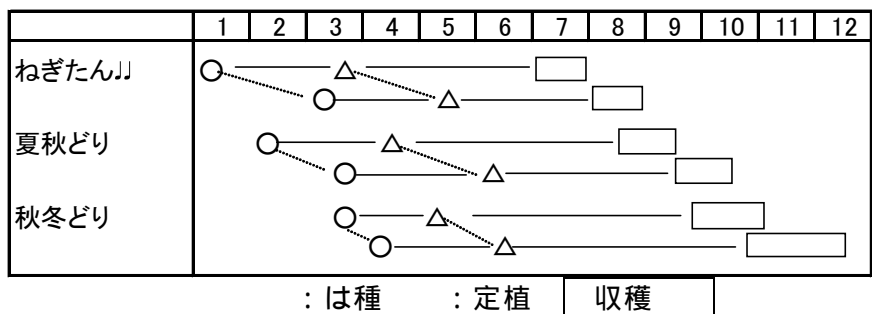
- (1) 白ねぎは多様な作型があり、ほぼ周年的な出荷が可能。
- (2) 「富山しろねぎ」として富山ブランドをすでに確立しており、県外も含め、市場でも高い評価を得ており、増産が望まれています。
- (3) 収穫適期期間が他の作物より長く、作業スケジュールを調整しやすい作物です。



2. 白ねぎ栽培導入のメリット

- (1) 水稲作業との作業競合が少ない品目です！！

秋冬期（10～11月）の収穫が中心となりますが、作型によっては、8月からの白ねぎ収穫 水稲の稲刈り 11月まで白ねぎの収穫と、地域労力の活用が図れます。



- (2) 省力・低コスト栽培が可能！！

白ねぎ栽培にかかる労力の大半（60%）は収穫・調整作業ですが、管理作業も含め、省力化を図る機械がたくさん開発されています。

基本装備としては、定植用の簡易定植機、土寄せ用の管理機、防除用の動力噴霧機、収穫調整用の皮むき機・結束機が必要となります。

3. 栽培のポイント

- (1) 排水対策

湿害に弱い作物であることから、排水の良いほ場を選定し、更に額縁排水や弾丸暗渠の設置により、徹底した排水対策が必要です。

- (2) 連作障害対策

水田での栽培により、ほ場ローテーションを上手く組めば、土壌病害対策となります。

「ねぎたんJ」の紹介！（こんな白ねぎもあります）

「ねぎたんJ」とは、従来の白ねぎと比較して、コンパクトで
 買い物袋からはみださず、持ち運びやすい。
 使いきりサイズ・冷蔵庫に切らずに入る。
 葉まで美味しく食べられる。
 といった点がセールスポイントです。

- (1) 7月からの出荷が可能となります。
- (2) 土寄せ回数が通常の白ねぎより少ないので、より省力的な栽培が可能となります。
- (3) 富山県オリジナル品種「越中なつ小町」「越中ふゆ小町」を栽培することができます。

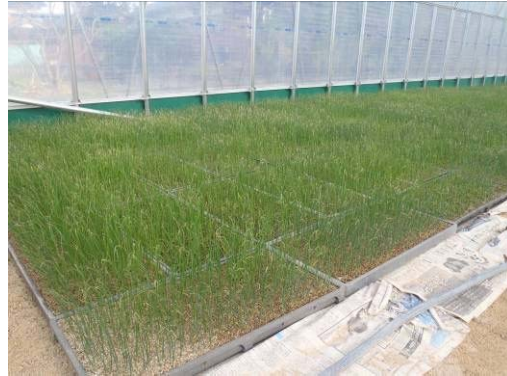
4. 作業の流れ

(1) 育苗

- ・ 水稲用育苗箱（60cm×30cm）にチェーンポットを展開し、床土を詰め、専用の簡易播種機でコーティング種子を播種します。



簡単に播種できます。



無加温ハウスの中で管理します。

(2) 定植作業

- ・ 植え溝を掘り、簡易定植機（ひっぱりくん）を引張ることで、簡単に植付けられます。



(3) 管理作業

- ・ 生育期間中に培土（土寄せ）作業を行い、軟白部（白い部分30cm）を作ります。
- ・ 定期的な防除が必要です。

(4) 収穫・調整作業

- ・ うね肩をスコップや鍬でけずり、白ねぎを引き抜いて収穫します。
- ・ 専用の皮むき機で皮をむき、テープで結束し、3kg箱に10束ずつ詰めて出荷します。



調整作業は、委託することも可能です。

えだまめ(黒大豆)

1. えだまめ栽培の魅力

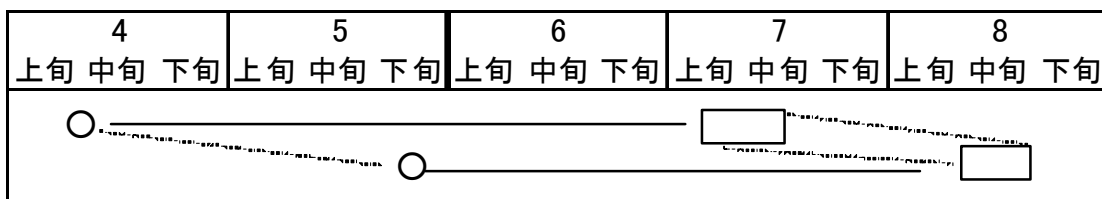
- (1) 県内の量販店等では、収穫間もない鮮度抜群な『えだまめ』の販売量は極めて少なく、差別化が図れます。
- (2) 黒大豆の「えだまめ」は他県産の流通量が少なく、甘みが強くコクがあるなど食味も良いので、差別化が図れます。
- (3) マルチ栽培により、早期出荷(7月上旬から)が可能となります。



2. えだまめ栽培導入のメリット

(1) 水稲との作業競合が少ない!!

収穫時期は7月上旬から8月中旬なので、水稲の収穫作業との作業競合が少なく、主穀作経営の複合化品目に適する。



○ : は種

□ : 収穫

収穫後の調整作業にはJAの出役があります。

(2) 大豆栽培技術が活かせる!!

えだまめ栽培のポイントの多くは『大豆』栽培と共通することから、主穀作営農組織等が今まで培った大豆栽培技術を活かせる品目である。

(3) 収穫・選別作業体制が整備されている!!

JA いみず野では、収穫機、脱莢機、選別機等の省力機械を整備しており、共同利用により労働時間の短縮化が図れる。

3. 栽培のポイント

(1) 排水対策

弾丸暗渠の実施、大麦跡・大豆跡への作付け(2年転作)等により、播種時の土壌条件(碎土率、排水性)を高めることで、発芽率の向上、初期生育の促進につなげる。

(2) 段まきの実施

1日あたりの収穫可能面積に応じた栽培面積とする他、収穫期間の長期化を計るために計画的な段まきを実施する。

4. 作業の流れ

(1) 播種



- ・ 専用播種機で、うね立て・マルチ張り・播種作業が同時に行なえます。
専用播種機はJAから借りれます。
- ・ その他、大豆播種機で播種することも可能です。



発芽～初生葉展開期まで、
防鳥ネットが必要です。

(2) 収穫



- ・ 手で抜き取って収穫します。
1条植えでは収穫機を使う(JAから借りる)ことも可能です。



- ・ JAから脱さや機を借り、さやだけをJAへ搬入します。



- ・ JAで選別をして、市場へ搬入されます。
出役が要請されます。

キャベツ



1. キャベツ栽培の魅力

- (1) キャベツは収穫が4月下旬から始まり、播種期をずらすことで、12月まで出荷が可能となり、経営体に応じた柔軟な作型で栽培できます。
- (2) ほ場での栽培期間が60日～90日程度(秋播き春どりは除く)と短く、他の作物との輪作が可能となります。

2. キャベツ栽培導入のメリット

(1) 苗の供給体制、定植作業体制が整備されている！！

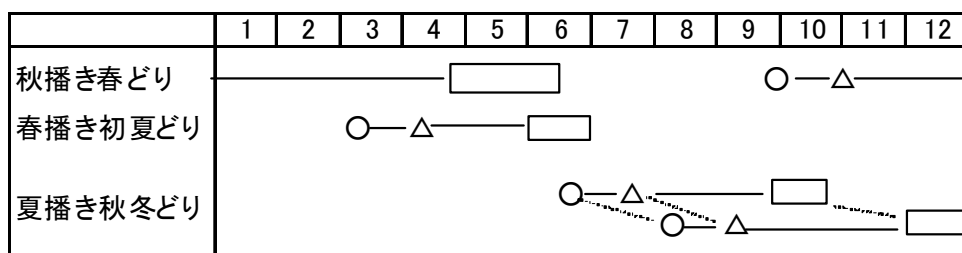
JA いみず野では、「苗生産」・「定植作業」の受託体制を整備しているため、初めての栽培でも安心して取り組みます。

(2) 経営体に応じた作業体系が組める！！

「秋播き春どり」では収穫が4月下旬から6月中旬。

「春まき初夏どり」では収穫が6月上旬から6月下旬。

「夏まき秋冬どり」では収穫が10月上旬から12月下旬と経営体の作業スケジュールにあわせた形で導入できます。



○ : は種 △ : 定植 □ : 収穫

(3) 既存の大型機械が活用できる！！

トラクター・管理ビークル等の既存の大型機械が活用できます。

3. 栽培のポイント

(1) 排水対策

額縁排水・弾丸暗渠の実施、大麦跡・えだまめ跡等への作付けにより、碎土率・排水性を高める。

(2) 初期生育の確保

定植期が高温乾燥期の場合、定植前の苗へのかん水等を徹底し、活着促進を図り、初期生育を確保する。

(3) 品種の組み合わせ

収穫適期が過ぎると、裂球などが発生し商品率が低下するので、複数の品種の組み合わせや段まきの実施により、収穫期を分散させる。

4. 作業の流れ

(1) 育苗

- ・専用の簡易播種機で簡単に播種できます。

(2) 定植

- ・定植時に除草剤を散布します。
- ・機械定植の後に、手直し作業が必要となります。



J A に定植作業を委託出来ます。

(3) 管理

- ・生育期間中に、追肥や防除が必要です。
- ・防除はブームスプレーヤーで行なうことができます。

(4) 収穫



- ・規格に達したものから収穫します。
- ・収穫は鎌や包丁で株元を切り、外葉を数枚剥ぐだけと簡単です。
- ・写真のような自走式運搬車（台車）があると便利です。
- ・10kg箱に出荷規格に基づき6～10玉を入れて出荷します。

こまつな

1. こまつな栽培の魅力

- (1) 水稲育苗ハウスの有効活用が図れます。
- (2) 生育適期では播種後 23 日程度で出荷可能となり、回転率が良く、年 6 ~ 7 作の作付けが可能となります。
- (3) ほうれんそうが作りにくい夏場でも安定して栽培でき、1 品目で周年的な栽培が可能です。



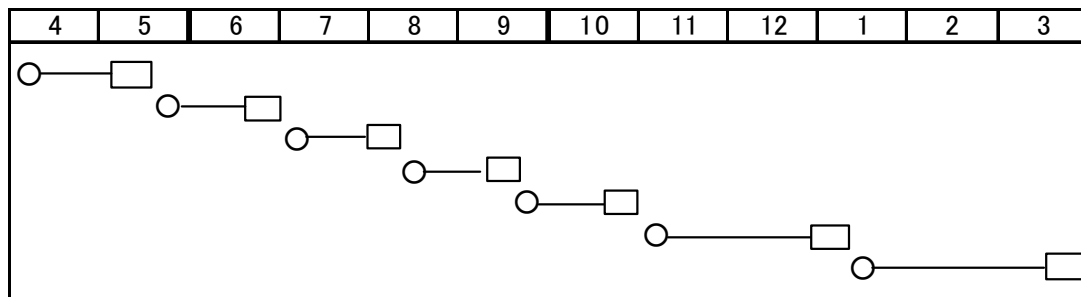
2. こまつな栽培導入のメリット

(1) 水稲育苗ハウスの有効利用！！

既存水稲育苗ハウスを利用して、周年的に栽培できます。

(2) 収入の機会が多い！！

こまつなの生育期間は厳冬期を除き 23~40 日程度です。計画的な播種により継続出荷することで、収入の機会が多くなります。



○ : は種 □ : 収穫

(3) 栽培管理作業が少ない！！

播種後、防除は多くても 1 回程度と少なく、収穫作業にも専用機械等は必要なく、手軽に取り組み始められます。

3. 栽培のポイント

(1) 防虫ネットを張る

コナガ等の害虫が発生しやすいため、ハウスサイド及び出入り口に防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぐ。

(2) 夏季の遮光

夏季のビニールハウス内は高温になるため、発芽・初期生育が不安定になります。

発芽・初期生育を安定させるために、播種から発芽後までの間、被覆資材で遮光します。

(3) 排水対策

梅雨時期や冬季間はビニールハウス内に周囲から水が入り過湿状態になるので、ハウスの周囲に排水溝を設置します。

4. 作業の流れ

(1) 播種

- ・簡易播種機（ごんべえ等）で播種できます。
- ・専用の播種機（コンビシーダー）を用いると、非常に省力的かつ均一に播種が出来ます。
- ・播種後、十分にかん水します。



簡易播種機での播種風景



コンビシーダーでの播種風景

(2) 管理

- ・防虫ネットを張るので、生育期間中の防除はほとんど不要です。
- ・夏季では、寒冷紗等で覆って地温を下げると、発芽が安定します。



防虫ネットで害虫の侵入阻止



均一に生育しているこまつな

(3) 収穫

- ・根をハサミで切り落とし、外葉を数枚取り、1袋200gに計量し袋に詰めます。



ブロッコリー(夏まき秋どい)

1. ブロッコリー栽培の魅力

- (1) 鮮度が落ちやすい野菜であることから、地元産としてのメリットが生かれます。
- (2) えだまめ等の後作として栽培が可能で、土地の高度利用が可能となります。



2. ブロッコリー栽培導入のメリット

- (1) 苗の供給体制、定植作業体制が整備されている！！

JAいみず野では、「苗生産」、「定植作業」の受託体制を整備していますので、初めての栽培でも安心して取り組みます。

- (2) 水稲との作業競合が少ない！！

収穫時期は10月上旬から12月上旬なので、水稲の収穫作業との作業競合が少なく、主穀作経営の複合化品目に適しています。

月	7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
夏まき		●			▲						■							
				●		▲						■						

- (3) 既存の大型機械が活用できる！！

トラクター・管理ビークル等の既存の大型機械が活用できます。

3. 栽培のポイント

- (1) 排水対策

弾丸暗渠の実施、大麦跡・えだまめ跡等への作付けにより、碎土率・排水性を高める。

- (2) 初期生育の確保

定植期が高温乾燥期のため、定植前の苗へのかん水等を徹底し、活着促進を図り、初期生育を確保する。

- (3) 品種の組み合わせ

ブロッコリーは収穫適期期間が短く、収穫作業能力に応じた栽培面積の設定と、複数の品種を組み合わせることで作期分散を実施する。

かぼちゃ

1. かぼちゃ栽培の魅力

- (1) 国内で流通するかぼちゃのほとんどが外国産であることから、国内産ニーズへの対応で有利販売できる
- (2) 収穫が、8月上中旬に終了するので、後作として秋野菜を作付けすることができる。



2. かぼちゃ栽培導入のメリット

(1) 収穫労力が少ない!!

生育途中につる直しや人工授粉を必要とするが、収穫作業に要する時間が他の作物と比較して少ない。

(2) 水稲との競合作業が少ない!!

収穫時期は7月中旬から8月上旬なので、水稲の収穫作業との労力競合が少なく、主穀作経営の複合化品目に適しています。

月	4			5			6			7			8			9			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
普通	○	○	—	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

○ : は種 △ : 定植 □ : 収穫

(3) 収穫適期期間が他の作物より長い

収穫適期期間が他の作物より長いことから、作業スケジュールの調整が取りやすい作物であるとともに、貯蔵することにより出荷調整が可能である。

3. 栽培のポイント

(1) 排水対策

排水のよいほ場を選定し、さらに額縁排水や弾丸暗渠を設置し、砕土率・排水性を高める。ほ場の冠水により、疫病が多発するので、入梅後はほ場排水に気を配る。

(2) つる直し・人工授粉

良品を生産するため、1本のつるに1～2果どりとする。

確実に着果させるために、午前中に人工授粉する。

つる直しによって、着果場所を一定にし、収穫作業を効率化させる。

(3) 収穫

収穫直後よりも、貯蔵することにより食味がよくなる。

スイートコーン

1. スイートコーン栽培の魅力

- (1) 鮮度が落ちやすい野菜であることから、地元産としてのメリットが生かれます。
- (2) 収穫後に茎葉を草刈機で刈りたおし、土にすき込むことにより土づくりができる。
- (3) 収穫が、8月上中旬に終了するので、跡作として秋野菜を作付けすることができる。



2. スイートコーン栽培導入のメリット

- (1) たくさんの労力を必要としない！！

直まき栽培が基本となることや、生育途中の栽培管理がほとんどない。

- (2) 水稲との作業競合が少ない！！

収穫時期は7月下旬～8月上中旬なので、水稲の収穫作業との作業競合が少なく、主穀作経営の複合化品目に適しています。

作型	4			5			6			7			8			9		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
普通				○	○													

○ : は種

□ : 収穫

3. 栽培のポイント

- (1) 排水対策

排水のよいほ場を選定し、さらに額縁排水や弾丸暗渠を設置し、砕土率・排水性を高める。

- (2) 生育量の確保

スイートコーンは、多肥栽培であることから発酵鶏糞の施用効果が高い作物である。

- (3) 品種の組み合わせ

収穫適期期間（穫り遅れると糖度の低下）が短いので、収穫労力に応じた栽培面積とする。

- (4) 防除

アワノメイガが飛来し、幼虫が茎や雌穂を食害するので、雄穂が抽出しはじめる6月下旬頃から予防的に殺虫剤を散布する。

- (5) 収穫

糖度を維持するために、朝どりする。（品温が上昇すると呼吸量が多くなり、糖度が低下する）

プチヴェール

1. プチヴェール栽培の魅力

- (1) 芽キャベツとケールを交配した野菜で、食味が良く、ビタミンCや鉄分、カルシウム等の栄養素含量が多い。
- (2) ビニールハウスでの栽培となるが、無加温で栽培でき、収穫期間も長い。



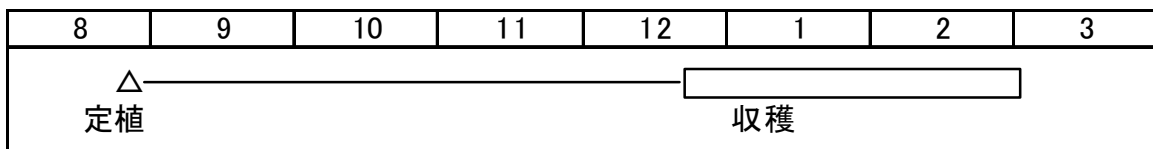
2. プチヴェール栽培導入のメリット

(1) 冬の労働力を活用できる！！

収穫が12月下旬頃から2月の冬季間であり、冬場の労力活用が図られることに加え、軽労働であることから女性労働力の活用にもつながります。

(2) 水稲との作業競合が少ない！！

定植作業は稲刈り前、収穫時期は12月下旬からなので、水稲の収穫作業と作業競合が少なく、主穀作経営の複合化品目に適しています。



: 定植 収穫

3. 栽培のポイント

(1) 排水対策

梅雨時期や冬季間はビニールハウス内に周囲から水が入り過湿状態になるので、ハウスの周囲に排水溝を設置します。

(2) 防虫ネットを張る

登録農薬が少ないため、コナガ等の被害を防ぐため、ハウスサイド及び出入り口に防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぐ必要があります。

(3) 灌水管理

プチヴェールは株元に灌水する必要があり、散水チューブ等の灌水装置が必要となります。ただし、過灌水は苗立ち枯れの発生につながるので厳禁です。

もも

1. モモ栽培の魅力

- (1) 本県産モモは輸送期間を要する県外産モモと比較して「新鮮・完熟」等の特長を活かすことにより、地場産の優位性を十分に発揮して差別化販売ができます。
- (2) 射水市内でもモモに取り組み始めた主穀作経営体があり、抜群の味の良さから高い人気を得ています。



2. モモ栽培導入のメリット

- (1) **早期の所得確保、夏場の現金収入！！**
苗木を植えて3年目から収穫ができ、他の果樹に比べて早期に所得が確保できます。
また、収穫時期が盛夏期であり、夏場に現金収入が得られます。
- (2) **水稲との作業競合が少ない！！**
富山県推奨品種の収穫時期は7月下旬から8月下旬なので、水稲の収穫作業との作業競合が少なく、主穀作経営の複合化品目として最適です。
- (3) **初期投資が少ない！！**
開園に必要な機械等は、防除機、草刈り機、苗木、支柱等です。
ナシやブドウなどに必要な果樹棚は不要です。

3. 栽培のポイント

- (1) **ほ場選定**
新規植栽に当たっては、風当たりが弱く、日当たりと排水の良いほ場を選んでください。
- (2) **排水・防風対策**
特に、水田での植栽は排水対策（心土破砕、額縁排水路等）を徹底してください。
また、風当たりの強い場所では病気にかかりやすいので、防風網の設置等が必要です。
- (3) **大苗移植による早期結実**
大苗（2年生苗木）を自家養成しほ場に導入することで、定植後2年目から収穫ができます。
また、排水性改善等のほ場条件の整備期間が確保でき、良好な条件での植付けが可能です。



排水対策例「額縁排水路」



防風対策例「防風網」

ストック (ハウス栽培)

1. ストックの魅力

- (1) ストックはヨーロッパ南部原産のアブラナ科の植物です。花色の豊富さ、さわやかな香りが特徴の花で、10月上旬～5月まで市場に出回っています。
- (2) 近年はアレンジメント用の花として、茎が5～6本に枝分かれするスプレー咲き品種(写真参照)の需要が拡大しています。



2. ストック栽培導入のメリット

(1) 冬期間に収入が得られる

秋冬期の需要期に対応した主力作型では水稲や大豆の作業が終了する11月以降の出荷となるため、主穀作経営の複合化品目に適しており、冬期間の収入確保にもつながります。

	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
10月出荷	○	△	—	□						
11～12月出荷		○	△	—	□					
2～3月出荷			○	△	—			□		

○ : は種 △ : 定植 □ : 収穫

(2) 低コストで初心者でも作りやすい

水稲育苗ハウス等の既存ハウスを利用することができます。
 また、5℃程度を目標に保温するので、年内出荷の場合、暖房機は不要です。
 栽培は比較的簡単で、初心者でもボリューム感のある良質な切り花を作ることができます。

3. 栽培のポイント

(1) 防虫ネットを張る

コナガ等の害虫が発生しやすいので、必ずハウスサイドや出入り口に防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぎます。

(2) 八重鑑別

ストックは、一重咲きと八重咲きが1:1の割合で現れます。市場性が高いのは八重咲きなので、八重率を高めるために、発芽後に葉の形や葉色を目安として一重咲きを間引く「八重鑑別」が必要になります。

(3) 排水対策

ほ場内に高低があると水が溜まり、生育が抑制されるので、手直しする必要があります。また、降雨時に水のつきやすいハウスは、周囲に額縁排水溝を掘りましょう。



×は一重 葉丸い、葉色が濃い
 8月1日播種 8月10日八重鑑別

お盆に直売所で切花を売しましょう

1. お盆時期の切花生産について

- (1) 直売所の切花は、「鮮度がよい＝長持ちする」との理由で、消費者から強い支持を得ています。
- (2) お盆の時期は需要に供給が追いついていないことから、生産拡大が求められています。
- (3) お盆用の定番切花（小ギク・アスター・ケイトウ・シンテッポウユリ等）を生産しましょう。



2. 栽培のポイント

品目名	4	5	6	7	8	9
小ギク		△ ×			□	
アスター	○	△			□	
ケイトウ	○	△	×		□	
シンテッポウユリ		△			□	

○：は種 △ 定植 × 摘芯 □：収穫

共通事項

- ・切花は強風で傾くと、短時間で茎が曲がり、花束に加工できなくなるので、必ず、フラワーネットを設置しましょう。フラワーネットは12cm×12cmの目で5目の規格のものを使用しましょう。
- ・定植直後、活着を促進するため、株元にたっぷりかん水しましょう。
- ・病害虫は殺菌剤（予防剤）に殺虫剤を加え、7～10日間隔で定期防除しましょう。

(1) 小ギク

ほ場は、水はけ・日当たりが良く肥沃な水田を選定します。

苗は、うね幅110cmのうね1m当たり16本必要（フラワーネット12cm×5目、2条植えの場合）です。

苗が活着したら葉を5枚程度残して摘心します。

開花を調節（早期開花防止）するため、エスレル10の500倍液を5月18日～22日の間に、展着剤を使用せずに散布します。

摘心後、わき枝が20cm程度に伸びた時に、生育のそろったわき枝を残し、3～4本に整理します。

病害虫はアブラムシ類・カメムシ類・ハダニ類・白さび病が発生します。



(2) ケイトウ

茎が緑色（青軸）の「サカタプライド」が定番品種

ほ場は、水はけ・日当たりが良い水田を選定します。

窒素肥料を基肥に施用すると、茎・花が大きくなりすぎて花束に組めなくなるので石灰資材のみ施用します。

苗は、うね幅 110cm のうね 1m 当たり約 34 本必要（フラワーネット 12cm × 5 目、4 条植えの場合）

発芽適温が 20～30 と高い。

種子に光が当たると発芽しないため、は種後は必ず覆土します。

定植時は深植えに注意し、定植後は活着するまで土壌を乾燥させないようにかん水します。

定植後、6 月上旬頃に本葉を 5 枚程度残して摘心します。

葉と葉の間が狭いので、摘心しにくいので、確実に摘心するように注意する。爪を伸ばしておくと芯を摘みやすい。

葉色などの生育状況をみながら、液肥（S540 を水に溶かす）を随時追肥します。

病害虫はほとんど発生しません。

花首が手で触って硬くなっていたら収穫できます。



(3) シンテッポウユリ

県内でお盆向けに生産する品種は、「オーガスタ」が定番品種。

ほ場は、水はけ・日当たりが良く肥沃な水田を選定します。

苗は、うね幅 110cm のうね 1m 当たり約 40 本必要（フラワーネット 12cm × 5 目の場合）

定植後は、葉色がうすくならないように、かん水や追肥する。葉色がうすいと、開花が早まると共に、輪数が少なくなります。1 本あたり 3～5 輪が目標。

病害虫アブラムシ類、葉枯病が発生します。

蕾が見え始めてから、約 20 日で開花となります。

ユリは、蕾で販売する切花なので、開花が早まわる時は、2～3 の冷蔵庫内で保管します。

